

78. 宮崎大学医学部（国立）

University of Miyazaki・Faculty of Medicine

<http://www.miyazaki-med.ac.jp/>

〒889-1692 宮崎県宮崎郡清武町大字木原5200

電話0985-85-1510

FAX0985-85-3101

e-mail: medsomu@fc.miyazaki-u.ac.jp

教養課程

〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西1-1

電話0985-58-7133

専門・教養課程所在地間の最寄交通機関による所要時間 約5分

1. カリキュラム全般について

A. 一般教育（教養）と専門教育との関係：

- 1) 学則上は一般教育（教養）部門を独立して設けている。
- 2) 一般教育（教養）の学習は1、2年生のみで行われる。
- 3) 専門教育（準備教育は除く）の学習は1年生から開始する。

B. 教授会は一般教育（教養）と専門教育とで常に合同で開催される。

C. 学生や教員や地域住民などに対し、医学部・医科大学としての一般目標や理念が印刷物や看板・ホームページなどのメディアで示されている。

D. 学生や教員が学習内容を予め知ることができるように、授業科目の学習目標（一般目標や行動目標）、授業内容、担当者などを印刷物（シラバス）ですべて示しており、その印刷物を教育要項（電子シラバス）という。

E. 4年生大学既卒者（学士編入生）は卒業学部にかかわらず、すべて1年生に入学する。

F. 1年生の入学時オリエンテーションは2日間合宿して行う。

G. Early Exposure（医学教育の早い時期に医学・医療の場に接し動機づけを試みる教育）を行っている学年は1、2年生である。

その期間と内容：1年生：1日間：学内看護体験実習

2年生：4日間：学外早期体験実習

H. PBL/チュートリアル（小グループで行う問題解決型学習）が導入されてはいない。

I. 細胞・組織レベル、ないしは臓器系統別の統合カリキュラムを多くの部分で採用している。

J. 平成16年にモデル・コア・カリキュラムを参考にして、独自のカリキュラムを構築している。

K. 今後のカリキュラム改訂は今のところ予定していない。

2. 選択制について

専門教科について選択制を採用してはいない

3. 一般教育（教養）について

A. 医学部医学科以外の学部や学科のある大学に伺います。

一般教育（教養）の授業は他学部（他学科）の学生と一部が一緒である。

B. 他大学との単位互換について認めている。

D. 一般教育（教養）部門ではほとんどが選択科目である。

E. 平成19年新入生で、高等学校などで「生物」を履修していない学生数は調査していないのでわからない。
「生物」を履修しなかった学生に対して、特別に対応してはいない。

F. 平成19年新入生にはセンター試験が導入されていた。

入学者のうち「生物」を選択していた学生は約49%であった。

4. 基礎医学教室ないしは社会医学教室（研究室）配属について

- A. 学生が一時期、基礎医学教室ないしは社会医学教室（研究室）に配属されるシステムがあり、希望者のみが3年生の時に平均して1週40時間×4週間配属される。

5. 臨床実習（外来実習、BSL、クリニカル・クラークシップを含む）について

- A. 臨床実習前に、まとまった形で医療面接・診察技法（例：臨床実習入門など）の学習を行っている。（12日間）
身体診察の学習に医師や学生以外の標準模擬患者（SP）を導入してはいない。
- B. 臨床実習の実施学年とその期間は（早朝や時間外は省略）
5年の時、1週40時間で、36週間である。
6年の時、1週40時間で、16週間である。
- C. 臨床実習科目は5年生は全科目を必修としている。また6年生はコア科目を必修とし、その他を選択必修科目としている。
- D. 大学の附属病院以外の施設（国・公・私立病院や保健所・老健施設などでの実習、国内外を問わない）で臨床実習を行っている。その期間は全部で8週で、そこで行う実習科目は（内科、産婦人科、外科、整形外科、麻酔科等）である。
この大学外の実習の場合の交通費は学生が自分で支払う。
- E. クリニカルクラークシップは臨床実習を行うすべての科で導入している。
- F. 臨床実習のための手引書は印刷物として配布されていて、それにはスケジュール、到達目標、医行為の範囲、評価法が記載されている。
- G. 臨床実習の評価として各診療科ごとの評価基準があらかじめ学生に示されている。
臨床実習の評価結果は可否（進級）の判定（総括評価）に用いられる。そして不合格になれば、再び全科の臨床実習を行う。
- H. 臨床実習中の学生の安全管理対策については保険制度に加入している。

6. 学生の海外における実習について

- A. 学生の海外における実習は臨床実習のみを行う機会がある。
期間は最長4週である。

7. 評価について

- A. 進級判定が行われるのは1年終了時、2年終了時、3年終了時、4年終了時、5年終了時である。
- B. 成績の記録法は点数制を採用している。
- C. 卒業判定のための試験は行われていて、それは講座ごとの試験である。
時期は9月から11月まで、期間は6週間（長期休暇期間を除く）である。
- D. 6年生の10月以降には、レビュー講義が組まれている。また、大学による国家試験対策のための特別な講義が組まれている。
- E. 卒前教育に携わっている教員に対し、教育業績の評価が行われ、その評価を行うのは、学生である。
自己評価以外の評価結果は本人にフィードバックされる。
その評価結果は昇進などに関係しない。
- F. 過去2年間に、卒前教育全体に対する第三者評価が行われたことはない。

8. 教員について（医学部・医学科および大学院学生の教育を担当する教員）

A. 教員数（平成19年12月現在）

		教 養*	基 礎**	臨床***	附属研究施設	その他	合 計
常勤 （有給専任）	教 授	4	18	20		1	43
	准教授	7	11	17		2	37
	講 師	1	5	32			38
	助 教		32	124			156
	その他		1				1
	合 計	12	67	193	0	3	275

非常勤 （客員・無給を含む）	教 授		28	71	2	3	104
	准教授		3	7			10
	講 師						0
	助 教			1			1
	その他		5	34		9	48
	合 計	0	36	113	2	12	163

* 教養の常勤者は医学部所属者のみに限る。総合大学で医学部所属者がいない場合は空欄とする。

** 基礎は社会医学を含む。

*** 臨床は附属病院・分院を含む。

B. 常勤の教員の任期制の制度を取り入れている。

任期制の制度の概要は下記のとおりである。

- ・任期5年、更新可（教授5回・准教授4回・講師2回・助教2回・助手2回
ただし、附属病院の一部の教員については回数制限なし）
- ・更新する場合、資格審査有り

C. 教員や臨床実習時の指導医の医療事故に対する対応策については、取り決められていて、何らかの保険制度に、任意で加入している。

9. 学生数（平成19年12月現在）

学 年	総 数	うち 女子 人数	うち学士編入者数	うち今年度留年者 数（今年度のみ）	うち休学者数	うち外国人 留学生	うち 女子 人数
1	104	44	0	4	3	0	0
2	115	49	0	15	0	0	0
3	111	41	0	14	4	0	0
4	95	36	0	4	0	0	0
5	101	40	0	0	0	0	0
6	97	56	0	0	0	0	0
合計	623	266	0	37	7	0	0

10. 平成19年4月（今年）の医学部受験状況（編入は含まず、1年生のみ）

受験者数512名、合格者数100名、倍率5.1倍

入学者数100名、（定員100名、うち推薦入学者数29）

入学者の状況：現役51名、1浪19名、2浪12名、その他*18名、

定員外に別試験で入学した外国人学生0名、

センター試験を導入している

センター試験で理科を2単科目課している。

12. 平成18年4月（昨年）の医学部受験状況（編入は含まず、1年生のみ）

受験者数500名、合格者数100名、倍率5倍

入学者数101名、（定員100名、うち推薦入学者数26名）

入学者の状況：現役45名、1浪23名、2浪16名、その他*17名、

定員外に別試験で入学した外国人学生0名、

センター試験を導入している

14. 授業時間配分

(1) 学期区分

学 年	学期制なし	学期制あり		総時間数		
		2学期制	3学期制	講義	実習	PBL／ チュートリアル
1		○		540	14	
2		○		318	274.5	
3		○		484.5	147	
4		○		874.5	114	
5		○			1440	
6		○			800	

（アーリーエクスポージャーは実習時間数に含める。）

(2) 土曜日の授業（講義または実習）は全学年ない

(3) 時間配分の概略図（授業区分のブロック図）

新カリキュラム（総合）

1	年	2	年	3	年	4	年	5	年	6	年
A				C	D						
B											

（注）A：教養（一般教育、基礎教育）

B：専門基礎科目（生物、化学、倫理関係など）

C：基礎医学科目（解剖、生理、薬理、寄生虫、免疫、衛生など）

D：臨床医学（統合講義型科目など）

旧カリキュラム

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
				A	

(註) A：臨床医学（臨床医学実習、卒業試験を含む）

15. 医学専門教育（専門課程）の教科別授業時間数

授業科目名	講義時間数	実習時間数	合計時間数
(新カリキュラム)			
生命倫理入門	22.5		22.5
医学医療概論	25.5		25.5
生命科学入門	22.5		22.5
統計学	22.5		22.5
発生学	12		12
有機化学	22.5		22.5
細胞生物学	22.5		22.5
臨床倫理基礎論	22.5		22.5
医用物理学	22.5		22.5
医療社会史	21		21
医学英語	22.5		22.5
E M P I	22.5		22.5
E M P II	22.5		22.5
肉眼解剖学	45	120	165
組織学	46.5	40.5	87
統合生理学	40		40
医科生理学 I	24		24
医科生化学	56	60	116
機能生化学	39	30	69
薬理学	84	15	99
病理学総論	63	39	102
免疫・生体防御学	33		33
微生物病学	85.5	21	106.5
寄生虫病学	27	18	45
衛生学	30		30
公衆衛生学	45		45
衛生学・公衆衛生学実習		15	15
法医学	39		39
○酵素と生体	33		33
○情報伝達と生体機能	33		33
生理学実習		54	54
○体液のホメオスターシス	22.5		22.5
○概説講義（臨床医学入門）	18		18
○受胎・発生・成長・発達	73.5		73.5
○循環器	54		54
○腎・尿路	33		33
○呼吸器	34.5		34.5
○消化器疾患(1)	33		33
消化管・腹壁			0
○消化器疾患(2)	33		33
肝・胆・膵			0

授業科目名	講義時間数	実習時間数	合計時間数
○周産期・生殖器・生殖機能・乳腺	57		57
○内分泌・代謝	37.5		37.5
○血液・感染症・膠原病	42		42
○神経・運動器・脊椎	100.5		100.5
○臨床遺伝学	12		12
精神医学	13.5		13.5
皮膚科学	13.5		13.5
眼科学	15		15
耳鼻咽喉・頭頸部外科学	13.5		13.5
歯科口腔外科学	12		12
リハビリテーション医学	19.5		19.5
○救急治療と急性期の生体管理	36		36
○臨床腫瘍学	18		18
○薬剤処方学・東洋医学	12		12
○老年医学と緩和医療	12		12
○症候学	9	45	54
臨床診断学 (旧カリキュラム)			0
病理学臨床実習		80	80
内科学臨床実習		240	240
精神医学臨床実習		40	40
小児科学臨床実習		80	80
外科学臨床実習		160	160
整形外科臨床実習		80	80
皮膚科学臨床実習		80	80
泌尿器科臨床実習		64	64
眼科学臨床実習		80	80
耳鼻咽喉科学臨床実習		80	80
産婦人科学臨床実習		80	80
放射線医学臨床実習		80	80
麻酔学臨床実習		80	80
脳神経外科学臨床実習		80	80
歯科口腔外科学臨床実習		40	40
臨床検査医学臨床実習		40	40
救急医学臨床実習		40	40
薬剤処方学臨床実習		16	16
クリニカル・クラークシップ		800	800
合 計	1731	2697.5	4428.5

各学年における講義時間数、実習時間数について

	講義時間数	実習時間数	合計時間数
1 学年	180	12	192
2 学年	250.5	274.5	525
3 学年	484.5	147	631.5
4 学年	874.5	114	988.5
5 学年		1440	1440
6 学年		800	800
合 計	1789.5	2787.5	4577

16. その他の教育内容

下記の教育内容は独立した授業科目*として授業が行われていますか。

独立した科目として授業が行われている科目：

医史学（選択）、人類遺伝学（臨床遺伝学）（必修）、行動科学（選択）、医療福祉学（医療社会福祉学）（選択）、医学外国語（選択必修）、医療安全（選択）、医の倫理（必修）、緩和ケア（必修）、医療情報学（必修）、高齢医学（必修）、在宅ケア・介護（必修）、プライマリ・ケア（必修）、臨床医学（必修）、人間関係学（必修）

独立した科目として授業が行われていない科目：

医用（電子）工学、医療経済、家庭医学、医療保険

18. MD-PhDコースを設置していない。